

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 28 年 6 月 17 日現在

機関番号：34534

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2013～2015

課題番号：25370810

研究課題名(和文) 地域遺産を活用した古代郷域史研究手法の開発

研究課題名(英文) A study of ancient Japanese regional history by utilizing the historical materials in the region

研究代表者

松下 正和 (MATSUSHITA, Masakazu)

近大姫路大学・教育学部・准教授

研究者番号：70379329

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：地域に残されてきた様々な種類の歴史資料を活用することで、古代資料の少ない地域における地域史研究の新たな手法を開発することを目的とした。特に、郷を設定する際の人為性・政治性をふまえて、古代氏族集団の存在や交通のあり方や地理的環境により、古代の郷を中心とする地域社会の多様性が形成されることが明らかとなった。また、古代の郷域と比較することで、中世の荘域や、近世の郷村への展開についての見通しを得ることができた。

研究成果の概要(英文)：By taking advantage of the various types of historical materials that have been left in the area, I was able to develop a new method of regional history research in areas with a few historical documents. I have focused on the area of "gou", by existence form of the ancient inhabitants and geographical environment, elucidated that the diversity of the ancient community is formed. I was able to obtain the prospects for the development of the Medieval manorial area and "Gouson" of the early modern period.

研究分野：日本古代史

キーワード：氷上郡 郷域

### 1. 研究開始当初の背景

古代地域社会の捉え方に関する研究動向としては、石母田正『日本の古代国家』(1971)を嚆矢とし、『日本村落史講座』(1990)や各自治体史の刊行、木簡や墨書土器・漆紙文書といった新たな出土文字資料の解明など、古代の地域史を捉える方法論や資料の蓄積が進んでいる。しかし、古代資料の少ない地域では郡レベルや一国単位での叙述にならざるをえないという限界(もともと「郡」のもつ重要性とも相即的ではあるが)があった。一方で、郡と村の間に位置する里(郷)という枠組みは、戸への支配という観点以外には従来村落史研究の中での位置づけが弱いという問題点があった。国郡里制から郷里制、国郡郷制への制度的変遷の中で、人為的区分性の強い里(郷)が、郡に比べて領域性が弱いため、内部の「村」との関連、領域的な中世的「郷」への展開についてはまだ未解明の部分が多い。荘域や郷村への展開を考える上でも、この「郷」という枠組みは地域社会を考える上でも重要ではないだろうか。近年では大山喬平氏により村の戸籍簿作りが提唱されており(「村を忘れた歴史学」『歴史評論』709、2009)、郡よりも更に下位の郷や村レベルまでの資料収集作業と分析が展開しつつあるが、これも古代資料のみに依存すれば資料の希少性という壁にあたるだろう。ここからも、戸籍・計帳史料や風土記、出土文字資料といった古代地域資料が少ない地域での古代史叙述、とりわけ郷域に即した地域社会像の構築のための手法が模索されているといえよう。

### 2. 研究の目的

兵庫県山間部には、旧家や地区の公民館などある地方文書・石造物などの歴史資料、また条里遺構、ほ場整備以前の航空写真、前近代から続く水利慣行、災害伝承にみる自然への対応、土質にあった耕地利用、村絵図などにみる空間認識などの古環境を考える上での素材が多数残されている。これらの地域遺産は、当然ではあるが主に中近世史や民俗学の分析対象となり、古代史研究には十分に活用されてこなかった憾みがある。よって、本研究の目的は、兵庫県丹波市(旧丹波国氷上郡)を主要なフィールドとし、主に中世から近代の地域遺産を活用することで、既知の古代文献資料を郷域の視座から新たに捉えかえし、郷域(郷里制以前は「里」)を中心とする古代地域社会の多様性や景観、都鄙間交通の特性を追究する新たな古代郷域史研究の手法を開発することである。

### 3. 研究の方法

(1) 古代文献資料に関しては六国史を中心とした編纂史料を調査する他に、既知の木簡史料についても原史料の熟覧により、読みが不確定な文字を調査することで郷(里)の比定をおこない、平行して氏族分布についても

精査し、地域間交通の諸相を検討する。加古川水系である栗作・拳田郷が「東国」に含まれていることを考慮にいれ、多紀郡との交通も含めて市内出土の官衙遺跡や郡の機能を再検討する。

(2) 削平などにより破壊された古墳や、廃寺、窠跡などの古代遺跡に関する地域情報や地元の伝承についても収集し検討を加える。現在の発掘成果(住居跡)にプラスした情報を地理情報システム上に集積することで、近世の村落分布を参照しながら、古代中世の氏族・集落・荘園分布の研究に資する。

(3) 特に荘園史料に着目し、郷名を引き継ぐ荘園とそうでない荘園(園・保)との差異や、所領関係、荘園経済をめぐる流通のあり方について国・郡・荘・村を分析する中で、前史としての古代の郷や村を捉える。

### 4. 研究成果

#### (1) 氷上郡内の条里

従来も条里プランの研究は重ねられてきたが、明治の陸則図の利用が中心であった。今回各地の市内公民館・集会所の区有文書や、旧家保管の地方文書を調査し、近世の検地帳や絵図などにみえる小字情報、近代の字限図、圃場整理前の航空写真から坪地名の抽出と条里方向の確認をおこなうことができた。条里地割を確認することで、郷域ごとの開発のあり方を推定することができた。ただし、条里地割に関しては、方位が同一であったとしても、開発の時期が同一とは限らず、また仮に開発時期が同一だとしても郷域が同一という確実な根拠とはならない。ただ、近世の絵図類にみる水路や現在にまで生きる水利慣行などともあわせ、フィールドワークを積み重ね、旧村史や古老からの聞き取り情報などにも留意することで、前近代の水利や景観を復元する手がかりを得ることができた。

#### (2) 式内社と奉斎氏族

氷上郡内には16郷、式内社は17社あり、式内社の分布にある程度の郷との関連が想定された。そこで、式内社の位置を現在地から可能な限り遡って確定するために、近世の村明細帳や村絵図などを利用し、前近代の式内社の位置を推定することにした。

また奉斎氏族には丹波国造系氏族や大嘗祭に関連する氏族である笠取氏・楯縫氏などの存在があり、春日部・壬生部・六人部・猪甘部・中臣部・鳥取部・語部など丹波の特色を示すものであった。

出土木簡からも造酒司への酒造米献上や、語部・楯縫部など大嘗祭に関連する氏族の多さが明らかとなり、それは丹波が大嘗祭主基国としての役割を平安期以降に果たすようになることの前史としても位置づけられる。

従来賀茂郷の所在に複数説あったため、鴨社・賀茂社の分布や「カモ」地名から氷上町と市島町を結ぶ五台山を越えるルートに注目し、上賀茂社領の分布との関連を調査することで、賀茂郷の比定をおこなった。

### (3) 水陸交通の結節点としての氷上郡

古代山陰道や丹後国府への丹後道が通る郡でもあるが、明確な駅家遺構や遺物がないため、正確なルートは不明である。ただ、日本一低い分水界が氷上町の水分れの地にあり、佐治川と竹田川の分水嶺として、瀬戸内と日本海を結ぶルートとしても重要である。和名抄にみえる西県と東県はあたかも佐治川流域と竹田川流域を分けるごとくであるが、東県のうち栗作郷が篠山川沿い(加古川流域)に位置することから多紀郡との交通や栗作・拳田間の南北ルートとの関連が認められる。つまり、西県沿いは北は山陰道の遠坂峠越えによる但馬への接続、南は加古川沿いに播磨への接続の役割を果たした地域であり、東県沿いは竹田川沿いに丹後道の塩津峠越えによる丹後への接続、西は多紀郡を通じた京への接続という役割を果たした地域であることが明らかとなった。

### (4) 氷上郡内の郷域の確定 - 考古学的・地理的な環境との関連

文献資料のみならず考古資料や中世以降の地域資料などをふまえながら、郷域の確定作業を試行的におこなってみた。今後は、群集墳や住居跡の分布の検証、中世庄園・近世郷村への展開などもふまえ、継続的に検討していきたい。

その他、神社の由緒を調査する中で、過去の災害記録を新たに発見することができた。災害記録自体が史実を直接的に示しているかどうかは別途検証が必要だが、たとえば沼貫郷の「奴々伎大神」「沼池大神」などは、佐治川水系の低湿地の開拓神を示し、前近代の地理的景観を示すものとして注目できる。また、令和三年の南海地震の被害をも記している由緒もあり、内陸にも被害があったことの根拠として注意すべき記述であると思われる。

### (5) 地域への研究成果の還元

地方文書調査や成果公開の際には、丹波市教育委員会の文化財担当職員や、丹波市立植野記念美術館等の学芸員、市内自治会の区長、氷上郷土史研究会・市島町史実研究会などの協力者と成果を共有しながら、現地での現地説明会や展示会を開催することができた。今後はよりわかりやすい成果物としてブックレットを作成し、地元に配布する予定である。また、丹波での研究成果を播磨での郷域史研究に活かすべく、播磨国風土記にみる里ごとの研究も同時並行的に進め、これも丹波との比較をおこないながら、現地での報告と現地への研究成果の還元に努めた。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計5件)

松下正和、「古代郷域史研究序説 - 丹波国氷上郡の諸郷を例に - 」(近大姫路大学人文

学・人権教育研究所編『翰苑』第2号、2014年11月、pp.143-187)

松下正和、「葦屋ウナヒ乙女伝説をめぐるモニュメント空間について( )」(近大姫路大学人文学・人権教育研究所編『翰苑』第3号、2015年3月、pp.117-132)

松下正和、「川辺郡内の古代氏族 - 若湯坐連氏を中心に」(『市史研究紀要たからづか』27号、宝塚市教育委員会、2015年3月、pp.34-53)

松下正和、「播磨国風土記の世界 - 賀古郡条」(近大姫路大学人文学・人権教育研究所編『翰苑』第4号、2015年11月、pp.185-199)

松下正和、「播磨国風土記の世界」(『いひほ研究』第8号、いひほ学研究会、2016年3月、pp.4-22)

[学会発表](計16件)

松下正和、「播磨国風土記を読む - 古代の印南郡」、両荘寿大学、於両荘公民館(兵庫県加古川市)、2013年6月26日

松下正和、「ふるさとの地名が語る古代の印南郡」、高砂市高齢者大学、於高砂市教育センター(兵庫県高砂市)、2013年7月3日

松下正和、「地名が語る丹波の歴史 氷上郡に残された古代中世地名をたずねて」、平成25年度「TAMBA シニアカレッジ」、於ライブピアいちじま(兵庫県丹波市)、2013年8月23日

松下正和、「播磨国風土記と欠落した赤穂郡の謎」、相生歴史研究会講演会、於相生市民会館(兵庫県相生市)、2013年11月16日

松下正和、「播磨国風土記の世界 - 古代加古川流域 - 」、平成25年度いなみ野学園大学院講座、於いなみ野学園(兵庫県加古川市)、2014年2月17日

松下正和、「とよおか市民学芸員養成講座「古代史研究の基礎」」、於但馬国府・国分寺館(兵庫県豊岡市)、2014年6月29日

松下正和、「丹波史 丹波市の神社と寺院の歴史 - 丹波地域の前近代の宗教事情」、TAMBA シニアカレッジ、柏原住民センター(兵庫県丹波市)、2014年12月1日

松下正和、「苅野神社について」、氷上郷土史研究会、於上小倉公民館(兵庫県丹波市)、2014年12月13日

松下正和、「ふるさとの地名が語る古代の印南郡 - 播磨国風土記を読む」、高砂市高齢者大学、於高砂市教育センター(兵庫県高砂市)、2015年1月16日

松下正和、「播磨国風土記の世界」、いひほ学研究会 2015年総会記念講演会、於たつの市立揖保川公民館(兵庫県たつの市)、2015年5月10日

松下正和、「播磨国風土記が描く『中播磨』」、2015年播磨学特別講座 地域で読み解く播磨国風土記、於あいめっせホール(兵庫県姫路市)、2015年5月23日

松下正和、「播磨国風土記にみえる古代の印南郡」、高砂市中央公民館市民教養講座、於高砂市中央公民館(兵庫県高砂市)、2015

年 9 月 10 日

松下正和、「ふるさとの地名が語る古代の  
印南郡 - 播磨国風土記を読む」、高砂市高齢  
者大学、於高砂市教育センター（兵庫県高砂  
市） 2015 年 10 月 7 日

松下正和、「播磨国風土記が描く『西播磨』」  
2015 年播磨学特別講座 地域で読み解く播  
磨国風土記、於アクアホール（兵庫県たつの  
市） 2015 年 11 月 7 日

松下正和、「地名研究の最前線」、2015 年播  
磨学講座、於イーグレひめじ（兵庫県姫路市）  
2015 年 11 月 21 日

松下正和、「風土記からみた古代の神埼郡」、  
市川町観光協会講演会、於市川町文化センタ  
ー（兵庫県市川町） 2016 年 1 月 24 日

松下正和、「播磨国風土記に見る古代の賀  
古郡」、浜の宮学園公開講座、於尾上公民館  
大ホール（兵庫県加古川市） 2016 年 2 月 18  
日、

〔図書〕(計 2 件)

松下正和、「市民とともに伝える地域の歴  
史文化 - 兵庫県丹波市での取り組み - 」(神  
戸大学大学院人文学研究科地域連携センタ  
ー編『「地域歴史遺産」の可能性』、岩田書院、  
2013 年 7 月、pp.331-350)

松下正和、「荒ぶる女神伝承成立の背景に  
ついて」(武田佐知子編『交錯する知 - 衣装・  
信仰・女性 - 』思文閣出版、2014 年 3 月、  
pp.322-339)

〔産業財産権〕

出願状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
出願年月日：  
国内外の別：

取得状況 (計 0 件)

名称：  
発明者：  
権利者：  
種類：  
番号：  
取得年月日：  
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

[http://himeji.koutoku.ac.jp/category/class/kyoiku\\_gakubu/teacher/matsushita01.html](http://himeji.koutoku.ac.jp/category/class/kyoiku_gakubu/teacher/matsushita01.html)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

松下 正和 (MATSUAHITA, Masakazu)